

九州IoT実装推進ワーキンググループ 第三回会合 議事概要

■日 時 平成30年 6月5日(火) 13:30~17:10

■場 所 国際交流会館4F第3会議室(熊本市中央区花畑町4番18号)

■参加者 46団体、71名

=====《議事内容》=====

1. 国の実証事業を通じた事例紹介並びにNICTにおける取組み紹介
2. 各省からのIoT関連の施策説明
3. 各自治体からのIoT取組み紹介
4. 地域活動報告(宮崎県高原町)

=====

1. 国の実証事業を通じた事例紹介並びにNICTにおける取組み紹介

下記企業より、下記説明資料に基づく発表がなされた。

(1) 西日本電信電話(株) :

経済産業省平成28年度補正予算IoTを活用した新ビジネス創出推進事業
『MIRACLE NAGASAKI PROJECT~皆来る 長崎 大作戦~』
から『つながろう九州プロジェクト』

(2) トラストパーク(株) :

総務省平成28年度補正予算「IoTサービス創出支援事業」
シェアリングエコノミー型九州周遊観光サービスモデル事業

(3) テラスマイル(株) :

総務省平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)
農業経営の営農計画予測と費用対効果シュミレーションシステムの構築

(4) NICT

NICTが運用する総合テストベッドと最新のテストベッドの動向

2. 各省からのIoT関連の施策説明

下記より、下記説明資料に基づく発表がなされた。

<発表機関>

九州総合通信局、九州農政局、九州経済産業局、九州運輸局

3. 各自治体からのIoT取組み事例紹介

下記より、下記説明資料に基づく発表がなされた。

<発表自治体>

- ① 各県(政令市) (※ 資料配付のみ)
福岡県*, 長崎県, 大分県*, 熊本県*, 鹿児島県*, 北九州市*, 福岡市, 熊本市
- ② 市町村
多久市、長洲町

4. 地域活動報告（宮崎県高原町）

事務局より、地域活動として、宮崎県高原町にてIoTをどう使うかではなく、町の課題をどう捉えて解決するかに主眼においた勉強会をスタートしたことを紹介し、宮崎県高原町より資料に基づき説明された。

5. 質疑応答・意見交換

座長の進行により、以下のとおり、質疑応答・意見交換がなされた。

（1）事業の連携（NTT西日本・トラストパーク）

（九州総合通信局）

NTT西日本とトラストパークの取組みは周遊という話であり、NTT西日本の取組みはインバウンドと言う形にはなっていたが、国内の観光客にも同じ様な話しは適用できるかと思う。トラストパークについても、（車泊の）駐車スペースに道の駅等を活用して、そこから色々な他の観光地を周遊してもらい地域を盛り上げようとしている。

トラストパークについては、例えばNTT西日本や携帯キャリアで同じ様な行動分析はできると思うが、他社と連携されていないのか。

また、NTT西日本は、インバウンドではなく国内観光客を対象として、どの様な旅行者の方々が活動して分析しているのか、自治体と連携して地域の方々と若い人達が議論し、こういうのが面白いねと言うのが分かるのは良いことと思う。そのような取組みは、国内観光客向けに一般的にされていないのか伺いたい。

（NTT西日本）

自治体と話をする中では、インバウンドの話が多いと感じている。たとえば大阪ではデータを活用して、夜中に外出していない外国人を、どうやって外出させるかといった取組みをみても、そのように感じる。

昨年度の実証は、外国人のみの対象であったが、今年度の実証に関しては、日本人も対象にして良いと聞いているので、7月にインバウンドを開始しながら、順次、日本人向けも取り込み、さらに外国人と日本人の行動の違いを分析したいと考えている。

（トラストパーク）

提案期間が短い中、色々な企業とコラボレーションしたいと思い調査検討は行なった。ただし、ご質問のNTT西日本の取組みは探しきれず、また大手ベンダーとの連携も検討したが、最終的には自社開発することに至った。

本ワーキングの機会により、NTT西日本が持っている事業と絡めて一緒に進めることのできる部分は事業連携も検討していければと考えている。

（2）インバウンド向け行動分析の実証の仕組み（NTT西日本）

（長崎県）

実証に至っては、訪日外国人の方にスマートフォンを貸出して行なったのか。

（NTT西日本）

観光客が持っているご自身のスマートフォンにアプリをインストールして貰い、実証に参加して貰った。

(3) IoTで取得したデータ分析 (NTT 西日本)

(座長)

訪日外国人を引き付ける要素に繋がる情報として、多言語に対応したWEBサイトの話があったが、IoTの観点でこういうデータがあれば観光客を引き付けることに繋がったことがあれば教えていただきたい。

(NTT 西日本)

今回、観光アプリを使って利用者の「居住国」「性別」「年齢」「季節」「時間帯」「位置情報」などに応じて、「お薦め情報」「イベント情報」「お得なクーポン」等の Push 配信もしたが、大学生が作った手書きの地図は案外喜ばれ、観光客を引付けられる効果があった。実はデジタルだけでは解決できないアナログ的な部分も大切であると感じた。

(4) データの有効性

(座長)

様々な情報に基づいて分析や効果的な手法が、農業や観光等の分野毎にあると思うが、取得する情報は膨大な気がする。また、それをどのようにして取得すれば良いのかという問題もある。

今回の実証で取得したデータが有効だった面もあれば、もっと別の情報をセンシングできると良かった、と思うことがあったのではないか。

(テラスマイル)

農業では取得するデータの品質が昨年1年間課題であった。例を述べると、安価なセンサーを使うと、品質が悪く欠損が発生し、データが使えないことがあった。また、取得しているデータを、たとえばメーカーがメンテナンスデータとして扱っている日付を利活用する際、文字コードを加工するなどの途中処理をする必要があったりする等、利活用しづらいデータもあった。

ただし、現在ビニールハウスの中の気温、照度、湿度、CO₂はある程度データが取得できるようになってきている。さらに今後の技術革新として、自動車メーカーが精度の高い土壌センサーを開発してきており、品質が良いデータを生かすことができれば、農作物や野菜に紐づく土壌の上下のデータが見える化され、プラットフォーム上に貴重なデータとして整備できると期待しているところ。

(5) データ所有権

(事務局)

NTT 西日本とトラストパークが行なった観遊・周遊データは、自治体や地元の方々可以自由に分析することができるようなプラットフォームを提供することがゴールなのか。もしくは事業社が集めたデータを利用する場合は、対価を支払ってビジネスとすることがゴールなのか。

(NTT 西日本)

昨年度の経済産業省の実証については、サービス事業者全国10地域^{*}は双方でデータを見ることができ環境は整備されていた。(個人的には)将来的には匿名化されたデータは、オープンデータ化されるのではないかと考えている。

〔※全国10地域(釧路、三陸、渋谷、浅草、福井、鳥取、高松、長崎、熊本、広範地域)において、得られた訪日外国人旅行者の情報を「おもてなしプラットフォーム」に共有・連携する仕組みを実証。〕

(九州経済産業局)

NTT 西日本説明の事業は、データの共有領域を増やす(得られた訪日外国人旅行者の情報をプラットフォーム上に共有・連携する)実証の1つとして取り組んだ。

データを共有する仕組みを上位層(プラットフォーム)で実証し、他方ローカル部分では地域の観光データをスマートフォンのアプリ等を活用して取得するというところを行ったところ。

(九州総合通信局)

総務省「IoTサービス創出支援事業」については、取得したデータをオープンにする、クローズで取り扱うという観点ではなく、1年目は実証し、2年目以降は取得したデータをどのように使って社会実装していくか、というところに重要視して取り組んでいる。

6. 座長からの講評

《国の実証事業を通じた事例紹介(観光/農業)並びに NICT における取組み紹介》

(1) 西日本電信電話(株) : Miracle Nagasaki Project

- ・外国人観光客を対象として、行動分析して行動を可視化するという話であった。
- ・最終的には受け手側(観光客)をどう引き寄せるかは、(IoT 以外のアナログ的な部分など)色んな方々の知恵が必要だと感じた。

(2) トラストパーク(株) : シェアリングエコノミー型九州周遊観光サービスモデル事業

- ・事業として駐車場経営をされ、キャンピングカー製造販売(国内登録台数は10年で倍増)もされ、シェアリングエコノミーを活用した観光事業という話であった。
- ・シェアリングエコノミーは、情報を取得するだけでなく、それを共有して意思決定するまでの分散システムをどのように作るかが重要である。例として生産も分散でできる可能性もあり、そのように新たな視点で進めると色々な事業が生まれると創造した。

(3) テラスマイル(株) :

- ・農業経営に IT を活用する非常に先進的な取組みであり、皆と知見を共有して進めて頂ければと思う。
- ・活動も非常に前向きで農業・林業・水産業の第一次産業の中核として重要な活動ではないかと感じた。

(4) NICT

- ・ICT を活用した取組みを支援するための多数のテストベッドを保有しているので、皆さまも是非活用していただければと思う。

- ラストワンマイルのシステムを一から構築するのは容易ではないので NICT のテストベッドも活用されると良いと思う。

《各省からのIoT関連の施策説明》

各省ともにIoTに関連した非常に積極的な施策がなされ、また色々な支援金の仕組みを作るなど非常に有益な情報が多数あったので、是非皆さまも積極的に活用して新たなIoT事業を推進していただければと思う。

《各自治体からのIoT取組み事例紹介》

各自治体からも非常に先進的な取組みがなされていると思うが、ある意味では共通的なところもあると感じたので、本日の機会を通じて横の繋がりができればうれしく思う。

《地域活動報告》

高原町の取組みは、今から始まったということなので、本日先進的な取組みで幾つか成果が得られつつある皆様とともに、またこれから取り組む方々と足並み揃えて進んでいただければ大変うれしく思う。

《全体的な講評》

工学とは目的を持って目的に達成するために行ない、私も専攻を工学であるので、本日の話も勿論、目的を持ってIoTを使うということだと思う。しかしながら、一方で、想定していない目的以外の方向性への有用性もあると思うし、時には目的が明確でない活動もあるかもしれない。

それが他の方々にとって、有益な場合もあると思うので、是非それぞれの目的とは違った視点で他の方々に価値を見出し、事業連携されるなど、様々な相互作用や触発が生まれたいと思う。

引き続きIoT実装推進ワーキングにお力添えをお願いします。

以上